

LDC-RGB1 V02

D-COMPONENT to RGB Converter

D端子-RGBコンバーターユニット ユーザーズマニュアル

LDC-RGB1

Logitec

目次

取扱い上のご注意	1
ごあいさつ	4
ご注意	4
付属品の確認	5
第1章 製品のご紹介	6
1.1 製品の概要	6
1.2 各部の機能と名称	8
1.3 本製品の設置について	11
第2章 接続と設定について	12
2.1 接続の手順	12
2.2 BS/110 S デジタルチューナー使用時の設定	15
2.3 プログレッシブ対応 DVD プレーヤー使用時の設定	18
2.4 プログレッシブ対応家庭用ゲーム機使用時の設定	20
2.5 パソコンと接続する場合の設定	21
第3章 補足事項	22
3.1 トラブルシューティング	22
3.2 用語解説	25
3.3 D 端子コンポーネントの各フォーマット	30
ハードウェア仕様	31

取扱い上のご注意

本製品を正しく安全に使用するために

- ・本書では製品を正しく安全に使用するための重要な注意事項を説明しています。必ずご使用前にこの注意事項を読み、記載事項にしたがって正しくご使用ください。
- ・本書は読み終わった後も、必ずいつでも見られる場所に保管しておいてください。

表示について

- ・この「取扱い上のご注意」では以下のような表示(マークなど)を使用して、注意事項を説明しています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。



この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性がある項目です。



この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性、もしくは物的損害を負う危険性がある項目です。



三角のマークは何かには注意しなければならないことを意味します。三角の中には注意する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは感電に注意しなければならないことを意味します。



丸に斜線のマークは何かを禁止することを意味します。丸の中には禁止する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは分解を禁止することを意味します。



塗りつぶしの丸のマークは何かの行為を行わなければならないことを意味します。丸の中には行わなければならない行為が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは電源コードをコンセントから抜かななければならないことを意味します。

警告

万一、異常が発生したとき。

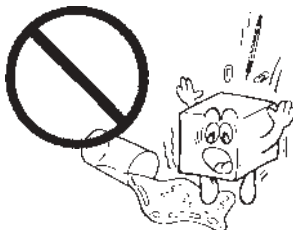
本体から異臭や煙が出た時は、ただちに電源を切り、ACアダプタのプラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。



異物を入れないでください。

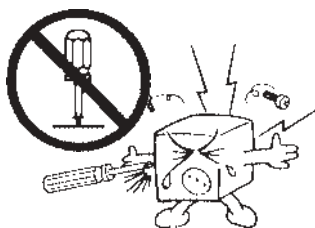
本体内部に金属類を差し込まないでください。また、水などの液体が入らないように注意してください。故障、感電、火災の原因となります。

万一異物が入った場合は、ただちに電源を切り販売店にご相談ください。



分解しないでください。

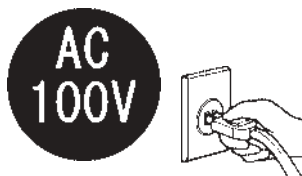
ケースは絶対に分解しないでください。感電の危険があります。分解の必要が生じた場合は販売店にご相談ください。



表示された電源で

使用してください。

ACアダプタは必ず本製品付属のものを使用し、AC100Vのコンセントに接続してください。



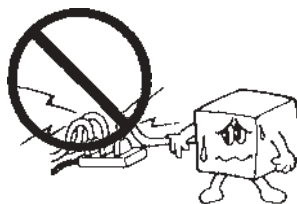
ケーブルを大切に。

ケーブル類は破損しないように十分ご注意ください。ケーブル部分を持って抜き差ししたり、ケーブルの上にものを乗せると、被服が破れて感電/火災の原因となります。



⚠ 注意

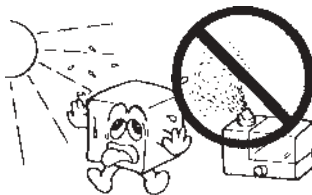
ACアダプタはなるべくコンセントに直接接続してください。タコ足配線や何本も延長したテーブルタップの使用は火災の原因となります。



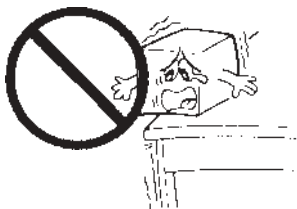
ケーブルは必ず伸ばした状態で使用してください。束ねた状態で使用すると、過熱による火災の原因となります。



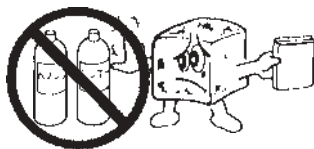
高温・多湿の場所、長時間直射日光の当たる場所での使用・保管は避けてください。屋外での使用は禁止します。また、周辺の温度変化が激しいと内部結露によって誤動作する場合があります。



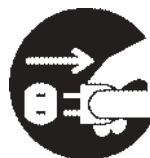
本体は精密な電子機器のため、衝撃や振動の加わる場所、または加わりやすい場所での使用 / 保管は避けてください。



本体が汚れた場合は必ず電源を切ってから、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ軽くふいてください。(本体内に垂れ落ちるほど含ませないように気をつけてください。)揮発性の薬品(ベンジン・シンナーなど)を用いますと、変形・変色の原因になる事があります。



本製品を長期間使用しない場合は、ACアダプタをコンセントから抜いておいてください。



ごあいさつ

この度は弊社製品をお買い上げいただきまして、誠に有り難うございました。本書は製品に関する設定 / 接続方法、機能 / 仕様等についてのご説明をいたしますので、ご使用前に必ずご一読いただきますようお願いいたします。

弊社製品によって、お客様のパソコン環境がより便利なものとなりますよう心からお祈りいたします。

ご注意

本書の一部または全部を弊社に無断で転載することは禁止されております。

本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審の点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡くださいますようお願いいたします。

本製品および本書を運用した結果による損失、利益の逸失の請求等につきましては、
項に関わらず弊社ではいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本書に記載されている機種名、ソフトウェアのバージョンなどは、本書を作成した時点で確認されている情報です。本書作成後の最新情報については、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

本製品の仕様、デザイン及びマニュアルの内容については、製品改良などのために予告なく変更する場合があります。

弊社は、本製品の仕様がお客様の特定の目的に適合することを保証するものではありません。

本製品は、人命に関わる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等）への組み込み等は考慮されていません。これらの設備や機器で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害等が発生しても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

本製品は日本国内仕様ですので、本製品を日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。また、弊社では海外での（海外に対してを含む）サービスおよび技術サポートを行っておりません。

付属品の確認

D端子-RGBコンバータ	1台
ACアダプタ	1個
コンポーネントビデオケーブル （D端子-D端子：約1.5m）	1本
アナログRGBケーブル （ミニD-sub-ミニD-sub：約1.5m）	1本
縦置き用スタンド	1セット
横置き用ゴム足	1シート
D端子-RGBコンバータ ユーザーズマニュアル	本書
保証書 / ユーザー登録カード	1枚

本製品は精密電子機器です。輸送時には必ず付属の梱包材をご使用
ください。

第1章 製品のご紹介

1.1 製品の概要

本製品は、AV機器などから出力されるコンポーネントビデオ信号を、パソコン用のCRTモニターで表示可能なRGB信号に変換するコンバータ・ユニットです。BS/110 Sデジタルチューナーから出力されるハイビジョン信号や、プログレッシブ対応DVDプレーヤーまたは家庭用ゲームなどから出力されるプログレッシブ信号を入力し、パソコン用モニターに表示させることができます。

本製品の特徴

480p、1080i、720pの3種類のフォーマットの信号に対して、自動切り替えで対応します。

信号処理回路には、ハイビジョンに対応した高性能LSIを採用し、高解像度のハイビジョン映像の魅力を余すことなくモニターに伝えます。

パソコン用のRGB入力端子を備えていますので、お手持ちのパソコンとAV機器を切り替えてご使用になれます。

D端子入力端子を2系統備えておりますので、2台の機器を接続して切り替えてご使用になれます。

入力切り替え回路にはメモリ機能を持っておりまして、電源オン時には前回の電源オフ時と同じ入力自動的に選択されます。

縦置き用の専用スタンドと横置き用のゴム足が付属しておりますので、機器構成やレイアウトに合わせて自由に設置場所をお選びいただけます。

D端子入力に接続可能な機器

BS/110 Sデジタルチューナー(1)
 プログレッシブ対応DVDプレーヤー(2)
 プログレッシブまたはハイビジョンに対応したゲーム機(2,3)
 その他、D端子を持ち、480p、1080i、720pのいずれかの表示モード
 をサポートする機器

- 1：出力を1080i(または1125i)に固定できる必要があります。
- 2：480pへの切り替えに一般のテレビが必要な場合があります。
- 3：ゲームソフトがプログレッシブまたはハイビジョンに対応している必要が
あります。

RGB入力端子に接続可能な機器

アナログRGB出力を持ったパソコンやワークステーション(4)
 4：1600×1200ドット以上の解像度でのご使用はお奨めできません。

RGB出力端子に接続可能なモニタ

水平同期周波数31～45KHz、垂直同期周波数50～60Hzのインターレース
 およびプログレッシブ(ノンインターレース)信号に対応し、表示サ
 イズ調整が可能なアナログRGB入力のCRTモニタまたはアナログ
 RGB入力の三管式プロジェクタ(5)

- 5：本製品はCRT方式以外(液晶方式やDLP方式・プラズマ方式など)のモニ
 タまたはプロジェクタではご使用になれません。

ご注意

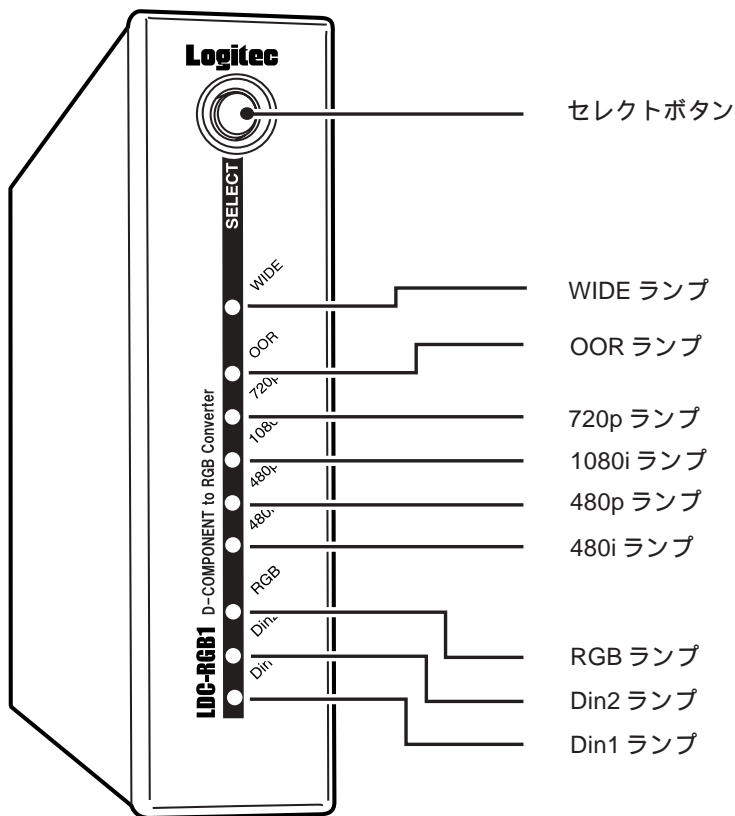
本製品には音声信号の入出力端子や切り換え機能はありません。

サポートされる表示モード

フォーマット	水平周波数	垂直周波数	走査方法
480p (525p)	31.5KHz	59.94Hz	プログレッシブ (ノンインターレース)
1080i (1125i)	33.75KHz	59.94Hz	インターレース
720p (750p)	45KHz	59.94Hz	プログレッシブ (ノンインターレース)

1.2 各部の機能と名称

本製品前面



セレクトボタン

入力ソースを切り替えます。

D 端子入力 1 (Din1) \ D 端子入力 2 (Din2) \ RGB 入力 (RGB in) の順に切り替わります。現在選択されている入力ソースは ~ の表示ランプで確認できます。

選択された入力情報は電源が切れてもメモリに保持されていますので、再び電源が入ると最後にご覧になっていた入力自動的に選択されます。

WIDE ランプ

入力信号がワイド画面（16:9画面）の場合に緑色に点灯します。機器によってはワイド画面識別信号を出力しない場合がありますが、その場合は本ランプは点灯しません。またD端子以外の方式で入力されたコンポーネント信号の場合には本ランプは点灯しません。

OOR ランプ

入力信号が本製品でサポートされていない場合、および信号が入力されていない場合に赤色に点灯します。この場合、本製品からはビデオ信号は出力されません。（画面が表示されません）

720p ランプ

入力信号が720p（750p）の場合に緑色に点灯します。

1080i ランプ

入力信号が1080i（1125i）の場合に緑色に点灯します。

480p ランプ

入力信号が480p（525p）の場合に緑色に点灯します。

480i ランプ

入力信号が480i（525i）の場合にオレンジ色に点灯します。この場合、本製品からはビデオ信号は出力されません。（画面が表示されません）

RGB ランプ

RGB入力（RGB in）を選択しているときに、黄色に点灯します。

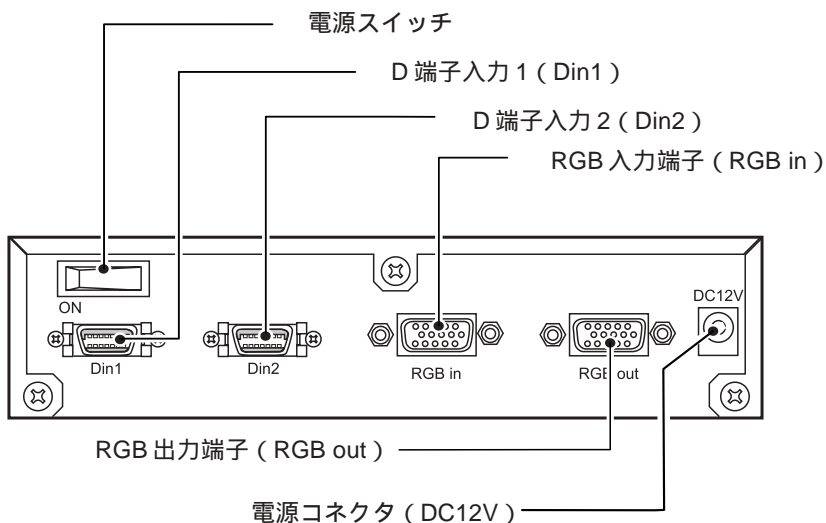
Din2 ランプ

D端子入力2（Din2）を選択しているときに、黄色に点灯します。

Din1 ランプ

D端子入力1（Din1）を選択しているときに、黄色に点灯します。

本製品背面



電源スイッチ

本製品の電源をオン / オフします。

D 端子入力 1 (Din1)

AV 機器などの D 端子ケーブルを接続します。

本端子を選択時には、前面の Din1 ランプが点灯します。

D 端子入力 2 (Din2)

AV 機器などの D 端子ケーブルを接続します。

本端子を選択時には、前面の Din2 ランプが点灯します。

RGB 入力端子 (RGB in)

パソコンなどの RGB ケーブルを接続します。

本端子を選択時には、前面の RGB ランプが点灯します。

RGB 出力端子 (RGB out)

CRT モニタの RGB ケーブルを接続します。

電源コネクタ (DC12V)

付属の AC アダプタを接続します。

付属の AC アダプタ以外は絶対ご使用にならないで下さい。

1.3 本製品の設置について

本製品は横置き・縦置きどちらでの設置も可能です。ご使用の際は付属のゴム足またはスタンドを使用して以下のように設置してください。また、ご使用の際には本体前面の保護シートをはがしてください。

縦置きで設置する場合

右図1のように、付属のスタンドを本製品の側面にはめ込んでご使用下さい。

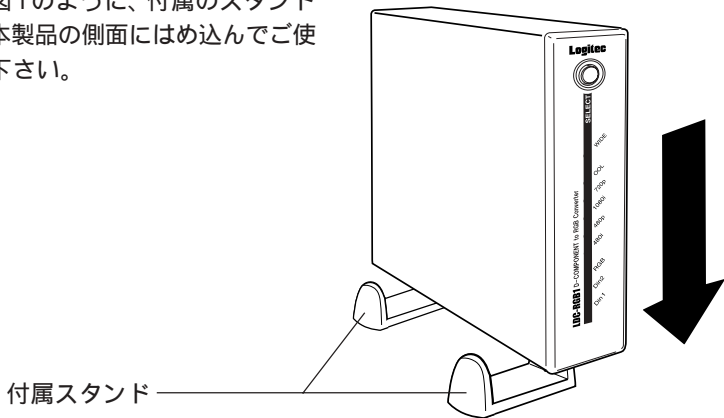


図1：縦置きで設置の場合

横置きで設置する場合

下図2のように、付属のゴム足を本製品の底面4ヶ所に貼り付けてください。

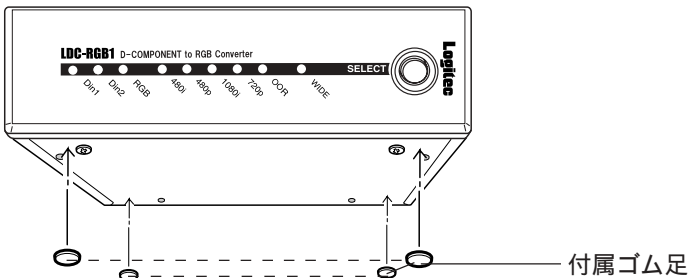


図2：横置きで設置の場合

第2章 接続と設定について

本章では本製品を使用してAV機器・BS/110 Sデジタルチューナー・パソコン等とパソコンモニタを接続する手順についてご説明します。

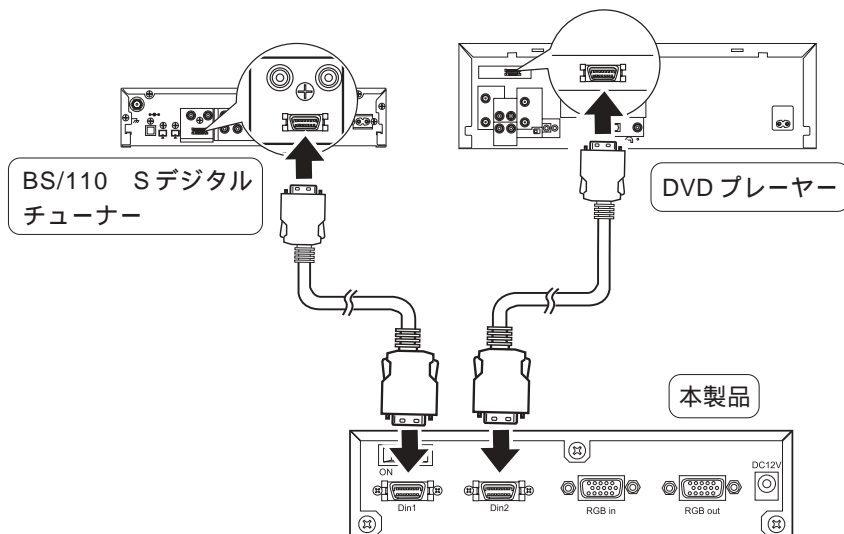
2.1 接続の手順

！ ご注意

接続の前に、パソコンやAV機器およびCRTモニタなど全ての機器の電源をオフにしておいて下さい。

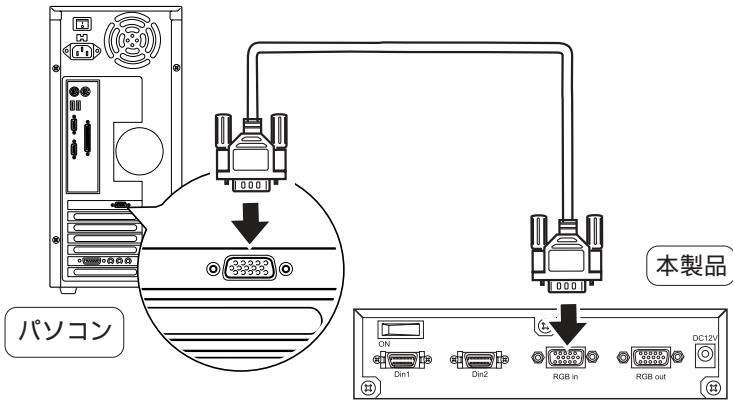
ここで使用する機器の画像はあくまでも一例です。ご使用の機器によりコネクタの位置などが異なりますので、接続の際は各機器の取扱説明書もご参照ください。

本製品に付属、あるいは市販のD端子ケーブルを使って、AV機器のD端子出力と本製品のD端子入力を接続します。



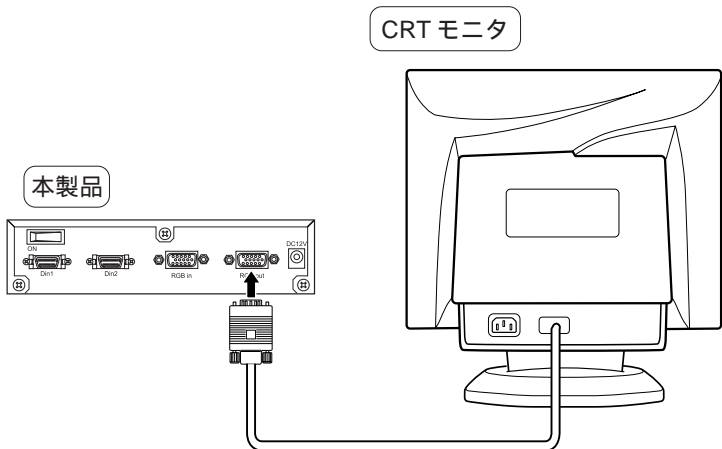
AV機器にD端子が無く、コンポーネント端子しかない場合には、市販のコンポーネント端子とD端子の変換ケーブルをお求め下さい。

本製品に付属のRGBケーブルを使って、パソコンのRGB出力と本製品のRGB入力を接続します。



パソコン無しでも本製品はご使用になれます。

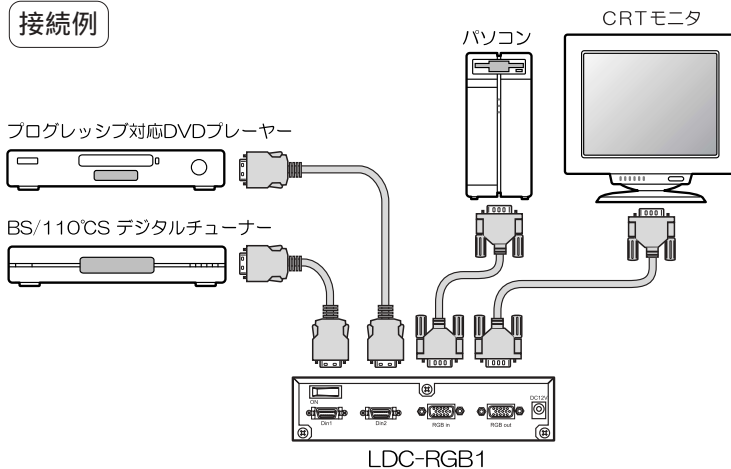
CRT モニタに接続されているRGBケーブルを、本製品のRGB出力に接続します。



2.1 接続の手順

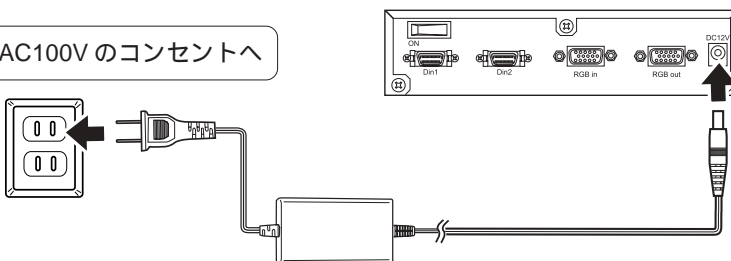
以下は接続例です。

接続例

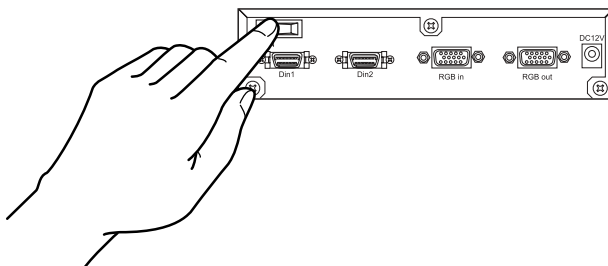


次に本製品背面の電源コネクタに、付属のACアダプタのプラグを接続します。ACアダプタはAC100Vのコンセントに接続して下さい。

AC100Vのコンセントへ



接続ができれば、本製品の電源スイッチをオンにして下さい。



2 . 2 BS/110 S デジタルチューナー使用時の設定

BS/110 S デジタルチューナーと本製品との接続には、本製品に付属のD端子ケーブルまたは市販のD端子ケーブルをご使用下さい。

BS/110 S デジタルチューナーのD端子出力の設定は、1080i 固定(または1125i 固定)としてください。

D端子出力を1080i 固定(または1125i 固定)に設定する方法については、デジタルチューナー付属のマニュアルをご覧ください。

(D端子出力の設定を行うために、一般的なテレビに接続する必要がある場合があります)

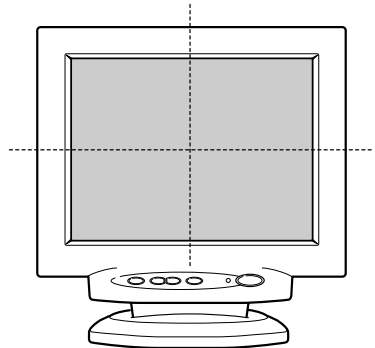
CRT モニタの調整

CRT モニタのアスペクト比(表示の縦横比)は通常4:3となっています。これに対してBS/110 S デジタルのハイビジョン放送は、ワイド画面(16:9)になっています。(本製品のWIDE ランプが点灯します)

ワイド画面を正しいスタイルで見るとするために、CRT モニタを次のように調整してください。

(モニタの調整方法は、メーカー・機種により異なります。以下の手順をご参照の上、具体的な調整の方法については、お手持ちのモニタのマニュアルにてご確認ください)

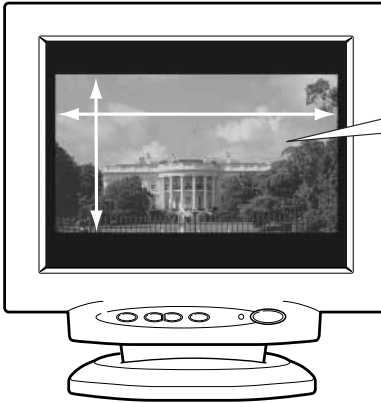
CRT モニタの垂直表示位置
(Vertical Position)・水平表示位置
(Horizontal Position)をセンターに
あわせませす。



垂直表示サイズ(Vertical Size)・水平表示サイズ(Horizontal Size)の比率が16:9になるように調整します。
調整の設定には次の2通りがあります。

アンダースキャン

16:9に設定した画面がCRTモニタの表示範囲内に全て収まる設定です。

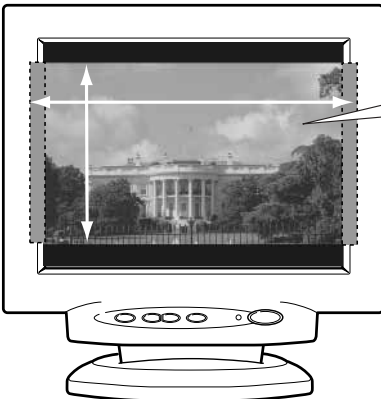


画面表示範囲内にデジタルハイビジョン規格の16:9の画面が収まるようにします。



オーバースキャン

16:9に設定した画面の横幅がCRTモニタの表示範囲を超えるようにする設定です。実際のハイビジョンテレビで見た場合に近い見え方になります。



横幅を少し画面表示範囲内から出るようにして、画面を大きく表示させるようにします。破線の部分は表示されません。



なお、チューナーを1080i固定に設定した場合、480i放送(4:3)は次のように表示されます。

アンダースキャンに調整した場合



オーバースキャンに調整した場合



2 . 3 プログレッシブ対応DVDプレーヤー使用時の設定

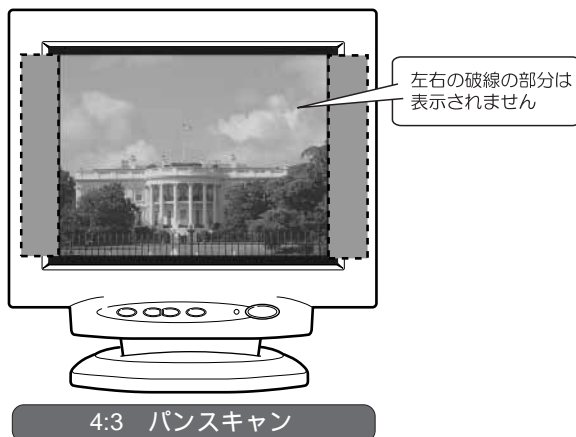
プログレッシブ対応DVDプレーヤーと本製品との接続には、本製品に付属のD端子ケーブルまたは市販のD端子ケーブルをご使用下さい。
DVDプレーヤーとのD端子出力の設定は、プログレッシブ固定(またはD2固定)としておくことをお奨めします。
D端子出力をプログレッシブに設定する方法については、DVDプレーヤーに付属のマニュアルをご覧ください。

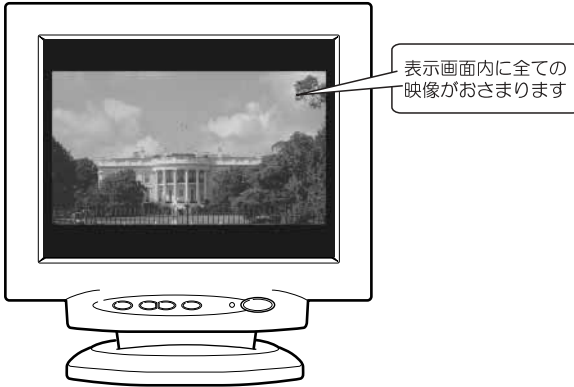
D端子出力の設定を行うために、一度一般的なテレビに接続する必要がある場合があります。

CRTモニタの調整

プログレッシブ対応DVDプレーヤーは、接続するテレビに応じて、ワイド(16:9)あるいはノーマル(4:3)の出力を切り替えられるようになっています。接続しているCRTモニタが一般的な4:3の場合は、DVDプレーヤーのテレビ設定を4:3パンスキャン、あるいは4:3レターボックスに設定して下さい。

なお、テレビ設定を4:3パンスキャン、あるいは4:3レターボックスに設定している場合、スクイーズ(シネスコサイズまたはビスタサイズ)のコンテンツを再生するとそれぞれ以下のように表示されます。





4:3 レターボックス

DVDコンテンツを正しいスタイルで見るために、CRTモニタを次のように調整します。(調整時には、4:3パンスキャンモードに設定することをお奨めします。)

CRTモニタの水平表示位置 (Horizontal Position)・垂直表示位置 (Vertical Position) をセンターにあわせ、水平表示サイズ (Horizontal Size)・垂直表示サイズ (Vertical Size) の比率が4:3になるように調整します。



なお、DVDプレーヤーのテレビ設定を4:3に設定した場合は、コンテンツがスクイーズ画面であっても、本製品のWIDEランプは点灯しません。

2 . 4 プログレッシブ対応家庭用ゲーム機使用時の設定

プログレッシブ対応家庭用ゲーム機と本製品との接続には、ゲーム機専用のD端子ケーブルをご使用下さい。他のケーブルをご使用になると、故障の原因になる場合があります。

ゲーム機のD端子出力の設定は、プログレッシブ固定(またはD2固定)としておくことをお奨めします。D端子出力をプログレッシブに設定する方法については、ゲーム機に付属のマニュアル、および使用するゲームソフトのマニュアルをご覧ください。

D端子出力の設定を行うために、一度一般的なテレビに接続する必要があります。



ご注意

本製品を使ってゲーム機の画面をCRTモニタに表示するには、ゲーム機とゲームソフトの両方がプログレッシブ出力に対応している必要があります。

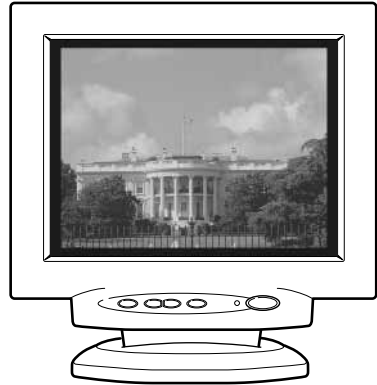
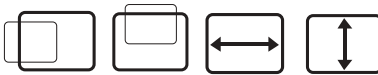
CRT モニタの調整

家庭用ゲーム機の中には、接続するテレビに応じて、ワイド(16:9)あるいはノーマル(4:3)の出力を切り替えられるようになっている場合があります。

接続しているCRTモニタが一般的な4:3の場合は、ゲーム機のテレビ設定を4:3に設定して下さい。

ゲームソフトを正しいスタイルで見るために、CRTモニタを次ページのように調整します。

CRT モニタの水平表示位置 (Horizontal Position)・垂直表示位置 (Vertical Position) をセンターにあわせ、水平表示サイズ (Horizontal Size)・垂直表示サイズ (Vertical Size) の比率が4:3になるように調整します。



なお、ゲーム機のテレビ設定を 4:3 に設定した場合は、コンテンツがワイドであっても、本製品の WIDE ランプは点灯しません。

2 . 5 パソコンと接続する場合の設定

パソコンと本製品との接続には、本製品に付属の RGB ケーブルまたは市販の RGB ケーブルをご使用下さい。パソコンの RGB 出力の設定は、ご使用のモニタに合わせて下さい。

前面のセレクトボタンを押して「RGB ランプ」が点灯状態になると、パソコンの画面が CRT モニタに表示されます。

CRT モニタの調整方法は、直接パソコンと CRT モニタを接続した場合と全く同じです。

第3章 補足事項

3.1 トラブルシューティング

Q D端子入力で接続したのですが、OORランプが点灯してCRTモニタに画面が表示されません。

A ケーブル類が正しく接続されているか、本製品の電源が入っているか、入力した信号をセレクトボタンで選択しているか、前面のDin1あるいはDin2ランプが点灯しているかを確認して下さい。
本製品は1080p(1125p)には対応しておりませんので、接続されている機器のD端子出力設定がD5になっていないか、お確かめ下さい。
D端子設定の詳細に関しては、ご使用の機器の説明書をご参照下さい。

Q D端子入力で接続したのですが、480iランプが点灯してCRTモニタに画面が表示されません。

A 入力信号が480i(525i)モードになっています。本製品は480i(525i)をサポートしていませんので画面は表示されません。D端子入力で接続している機器の設定を確認し、480p(525p)または1080i(1125i)出力に切り替えてご使用下さい。
D端子設定の詳細に関しては、ご使用の機器の説明書をご参照下さい。

Q RGB入力端子にパソコンを接続していますが、CRTモニタに画面が表示されません。

A ケーブル類が正しく接続されているか、本製品の電源が入っているか、RGB入力をセレクトボタンで選択しているか、前面のRGBランプが点灯しているかを確認して下さい。
パソコンから表示信号が正しく出力されているか、モニタのRGBケーブルをパソコンに直結して確認してみてください。

Q ワイドコンテンツを表示しているにも関わらず、前面のWIDEランプが点灯しません。

A 次のいずれかの条件に当てはまる場合、WIDEランプは点灯しません
D端子以外の接続方法でコンポーネント信号が入力されている場合
DVDプレーヤなどで4:3パンスキャンあるいは4:3レターボックス表示が選択されている場合
入力機器がゲーム機である場合
RGB入力を表示している場合

Q 画面の上部に白い線（破線）が表示されます。

A ビデオ信号の表示領域の外側には、さまざまな情報信号が付加されていますが、本製品は映像の品質を最大限維持するために、信号の加工を極力抑えています。
ここには、文字多重放送やEPG情報信号、あるいはコピーガード信号などの情報が含まれています。
一般のテレビはオーバースキャンと言ってブラウン管の外の領域まで走査させる方式ですのでこの領域は表示されませんが、パソコンモニタのようにアンダースキャンが可能なモニタでは、この部分が表示される場合があります。その場合は、モニタをオーバースキャンに調整することで、情報信号領域を画面の外に追い出すことが可能です。
ただし、ハイビジョン放送の場合には、16:9のアスペクト比に画面を合わせる必要上から、4:3のCRTモニタでは情報信号領域を画面の外に追い出すことはできません。
なお、調整の詳細に関しては、ご使用のCRTモニタの説明書をご参照下さい。

Q 電源を切ったり、コンセントを抜いたりしても、最後に選択した入力選ばれます。

A 本製品では、内蔵するフラッシュメモリがセレクトボタンの状態を記憶していますので、次回電源オン時には必ず同じ入力を選択されるようになっています。

Q 画質の調整はどうすればいいのでしょうか。

A 本製品には画質の調整機能は搭載しておりません。
画質の調整には、接続したCRTモニタの調整機能をご使用下さい。
調整の詳細に関しては、ご使用のCRTモニタの説明書をご参照下さい。

Q 画面が歪んで表示されます。

A 画像の歪みや傾きなどの調整には、接続したCRTモニタの調整機能をご使用下さい。
調整の詳細に関しては、ご使用のCRTモニタの説明書をご参照下さい。

3

その他：弊社ホームページについて

弊社ではインターネット上にホームページを開設しています。ホームページにはソフトウェアのダウンロードコーナーや、各種製品に関するQ&Aコーナーがあります。また、「サポート情報」では「お問い合わせ用紙」や「修理依頼書」等がPDF形式でダウンロード可能となっていますのでご活用ください。

ホームページアドレス：<http://www.logitec.co.jp/>

3.2 用語解説

CRT モニタ

一般的にブラウン管を用いて表示を行うタイプのモニタをCRT (Cathode Ray Tube) モニタと呼びます。

CRTモニタは、液晶モニタなどに比べて視野角によって色調やコントラストが変化することなく輝度、彩度、反応速度などで勝るといふ特徴があります。

また、マルチスキャンタイプのCRTモニタは、さまざまな周波数の信号に対する追従性に優れ、ハイビジョンなどのインターレース表示を正しく表示できることや、表示サイズや表示位置の調整が可能な点も大きな長所です。

反面、サイズが大きく重い、エネルギー効率が液晶モニタなど他方式に比べて悪い、などのデメリットもあります。

D 端子

D端子は日本電子機械工業会 (EIAJ) で定められた民生用コンポーネント信号端子で、1999年頃からAV製品を中心に採用が開始されました。

もともとは2000年から始まったBSデジタル放送対応受信機であるBSデジタルチューナーとテレビとの接続を目的に開発されたもので、Y/Pb/Prのコンポーネントビデオ信号を複合ケーブル1本で接続することができるのが最大の特徴です。

現在では、BS/110 Sデジタルチューナーをはじめ、DVDプレーヤーや家庭用ゲーム機、一部のビデオデッキなどにも採用されています。

機能は以下のように分類されます。

D1 : 480i (525i)

D2 : 480i (525i)、 480p (525p)

D3 : 480i (525i)、 480p (525p)、 1080i (1125i)

D4 : 480i (525i)、 480p (525p)、 1080i (1125i)、 720p (750p)

D5 : 480i (525i)、 480p (525p)、 1080i (1125i)、 720p (750p)、 1080P (1125p)

i はインターレース、p はプログレッシブであることを意味します。

480i (525i)

525本の走査線を使ってインターレース表示を行うモードで、D1対応のテレビで表示できます。

インターレース表示のためにちらつきが発生します。

なお、主なコンピュータ用モニタはこの周波数には対応していません。

本製品はこのモードをサポートしていません。

480p (525p)

525本の走査線を使ってプログレッシブ(ノンインターレース)表示を行うモードで、D2対応のテレビで表示できます。

インターレース表示と異なり、ちらつきが少なく解像感の高い映像が特徴です。

プログレッシブ対応のAV機器やプログレッシブ対応のゲーム機などのプログレッシブモードでは、このモードが使われます。

本製品はこのモードをサポートしています。

1080i (1125i)

1125本の走査線を使ってインターレース表示を行うモードで、一般的にハイビジョンと呼ばれ、D3対応のテレビで表示できます。

ハイビジョン対応のAV機器やハイビジョン対応のゲーム機などのハイビジョンモードでは、このモードが使われます。

本製品はこのモードをサポートしています。

720p (750p)

750本の走査線を使ってプログレッシブ(ノンインターレース)表示を行うモードで、デジタルハイビジョンで拡張されたモードの1つです。

D4対応のテレビで表示できます。

将来のハイビジョン機器で採用が検討されています。

本製品はこのモードをサポートしています。

1080p (1125p)

1125本の走査線を使ってプログレッシブ(ノンインターレース)表示を行う、デジタルハイビジョンで拡張されたモードの1つです。

現在市販されているテレビでは表示できません。

将来のハイビジョン機器に向けて研究が進められています。

本製品はこのモードをサポートしていません。

アスペクト比

画面の横と縦の比率を言います。通常のテレビやモニタでは4:3ですが、ハイビジョンテレビは16:9です。パソコン用のモニタの中には、16:10や3:2、5:4といった変則的なアスペクト比のものもあります。本製品では、D端子入力からの信号が「16:9」のワイド放送であることを検出すると、前面の「WIDE」ランプが点灯します。

アンダースキャン

ディスプレイやテレビなどにおいて、ブラウン管の外にはみでずに、内側の範囲をスキャンすることをアンダースキャンと言います。そのため、画像はブラウン管の内側に表示されます。通常パソコンに使用されるCRTモニタはアンダースキャンですが、調整によってオーバースキャンにすることも可能です。

【反意語：オーバースキャン】



3

インターレース

インターレースは飛び越し走査とも呼ばれ、映像を構成する走査線を1本ずつ飛び越した2枚の映像を交互に表示することで、1枚の映像を作る方式です。

現在の地上波アナログ放送などに採用されており、周波数帯域を節約できるというメリットがある反面、画面にちらつきが発生し、それによって見かけ上の垂直解像度が低下するなどの弊害があります。

【反意語：プログレッシブ】

オーバースキャン

ディスプレイやテレビなどにおいて、ブラウン管の周囲を含めた範囲までスキャンすることをオーバースキャンと言います。そのため、画像はブラウン管の外側にはみでてしまい見えない部分ができます。一般的なテレビは全てオーバースキャンです。

【反意語：アンダースキャン】



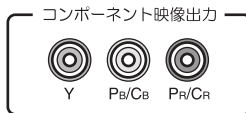
コンポーネント信号 (Y/P_B/P_R)

コンポーネント信号は色差信号とも言われ、色信号 (C) を B-Y 色差信号 (C_B または P_B) と R-Y 色差信号 (C_R または P_R) に分けて伝送しています。通常のテレビ (480i) レベルの信号のコンポーネント信号を [Y/C_B/C_R]、それ以上の映像フォーマットが使用できる端子を [Y/P_B/P_R] と表示します。コンポーネント信号は通常のビデオ信号に比べて、色ニジミ、色ムラなどのノイズが少なく、解像度が高く高品質な信号を伝送できます。

D 端子はこのような高画質・高品質なコンポーネント信号をケーブル 1 本で伝送できる端子です。



BS/110 S デジタルハイビジョンが開始される前の一部のハイビジョン機器や海外製の機器の中には、D 端子ではなく RCA タイプの端子を持ったものがあります。



このような機器を本製品に接続する場合には、市販の D 端子・RCA コンポーネントの変換ケーブルをお使い下さい。



D 端子・RCA コンポーネント変換ケーブルの例

シネスコサイズ

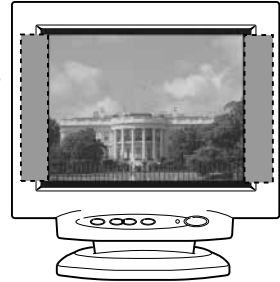
コンテンツ画面のアスペクト比が 1 : 2.35 になっているものをシネスコサイズと呼びます。ピスタサイズよりも横長になります。一般的な映画はこのサイズで制作されています。

ハイビジョン

ハイビジョンは次世代テレビとしてNHKで開発された技術で、高解像度・高画質・迫力のあるワイド映像・臨場感あるデジタル音声が特徴で、国際的にはHDTV (High Definition Television) の一部です。当初はMUSEと呼ばれる圧縮技術を使ったアナログハイビジョン方式でしたが、2000年12月からはMPEG2圧縮方式によるデジタルハイビジョンがBSデジタル放送で開始されています。

パンスキャン

パンスキャンとは、通常の4:3のアスペクト比のモニターでシネスコサイズやビスタサイズなどのワイド映像を表示する際に、縦サイズに合わせて横サイズを拡大し、両側にはみ出した部分(右図の破線の部分)はカットして表示する方式です。DVDプレーヤーによってはパン(スクロール)することができる機種もあります。



ビスタサイズ

コンテンツ画面のアスペクト比が1:1.85になっているものをビスタサイズと呼びます。字幕が画面内にある映画の多くはこのサイズで制作されています。16:9のワイド画面に近い比率になっています。

プログレッシブ(ノンインターレース)

インターレースのように走査線を飛び越さずに、完全な映像を1度に1枚ずつ表示する方式です。

パソコンなどの表示にはこの方式が採用されており、ちらつきが少なく解像感の高い表示が得られるのが特徴です。

【反意語：インターレース】

レターボックス

レターボックスとは、通常の4:3のアスペクト比のモニターでシネスコサイズやビスタサイズなどのワイド映像を表示する際に、横サイズに合わせて縦サイズを圧縮し、上下の隙間を黒帯で埋めて表示する方式です。



3.3 D端子コンポーネントの各フォーマット

	480i (525i)	480p (525p)	1080i (1125i)	720p (750p)	1080p (1125p)
走査線数	525本	525本	1125本	750本	1125本
解像度	640 × 480 程度 (1)	640 × 480 程度	1920 × 1080 (1)	1280 × 720	1920 × 1080
走査方式	インター レース	プログレッシブ	インター レース	プログレッシブ	プログレッシブ
アスペクト比	4 : 3	4 : 3	16 : 9	16 : 9	16 : 9
垂直同期周波数	59.94Hz	59.94Hz	59.94Hz	59.94Hz	59.94Hz
水平同期周波数	15.75KHz	31.5KHz	33.75KHz	45KHz	67.5KHz
D1		x	x	x	x
D2			x	x	x
D3				x	x
D4					x
D5					
パソコン用モニタ	x		2	2	2
LDC- RGB 1	x				x

1 : インターレース表示によるちらつきのため、垂直解像度は数値より低く見えます。

2 : CRT モニタの性能によります。

ハードウェア仕様

機種名		LDC- RGB 1	
入力信号/ コネクタ形状	コンポーネント入力	D端子 × 2	
		480p、1080i、720pの各フォーマットに対応	
		Y入力レベル	1 Vp-p (75)
		P _B 入力レベル	0.7Vp-p (75)
	P _R 入力レベル	0.7Vp-p (75)	
	アナログRGB入力	ミニ D - sub 15 ピン × 1	
		VGA以上のフォーマットに対応	
RGB入力レベル		0.7Vp-p (75)	
同期入力レベル		5Vp-p (TTL)	
出力信号/ コネクタ形状	アナログRGB出力	ミニ D - sub 15 ピン × 1	
		RGB出力レベル	0.7Vp-p (75)
		同期出力レベル	5Vp-p (TTL)
環境条件 *1	動作時	温度	5 ~ 35
		相対湿度	10 % ~ 80 %
	保管時	温度	- 10 ~ 50
		相対湿度	10 % ~ 90 %
入力電圧		DC+12V ± 5% *2	
消費電流		約300mA	
消費電力		約 5W *3	
外形寸法 幅 × 高さ × 奥行き		170 × 47 × 150 mm *4	
質量		約 750 g *5	

*1 ただし、結露なきこと

*2 付属の AC アダプタより供給

*3 AC アダプタを含む

*4 横置き時、突起部を除く

*5 本体のみ



<http://www.logitech.co.jp/>